

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要しょう乱の概要&gt;

- 31日は、千島近海付近に低気圧が進み、日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 1月1日から2日は、日本海と関東の東で気圧の谷が明瞭となり、次第に関東の東付近で低気圧が発生する。
- 3日から4日は、低気圧が発達しながら千島近海付近に進み、日本付近は冬型の気圧配置が強まる。大陸の高気圧が日本の南に張り出す。

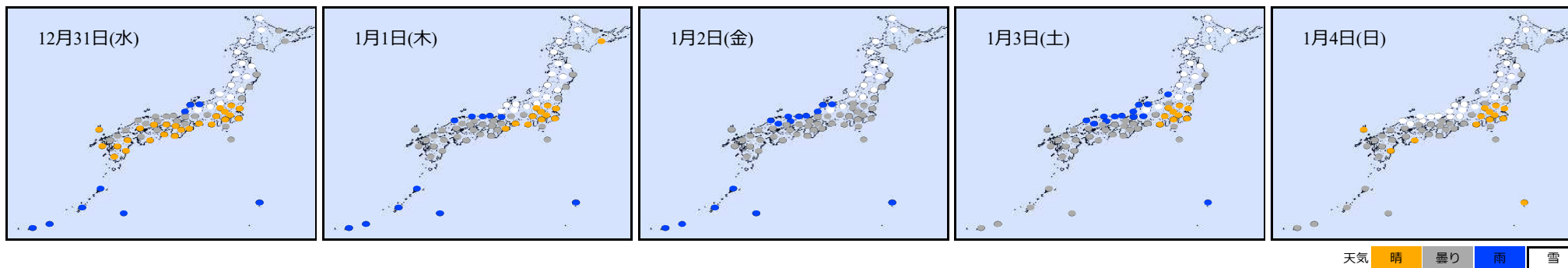
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

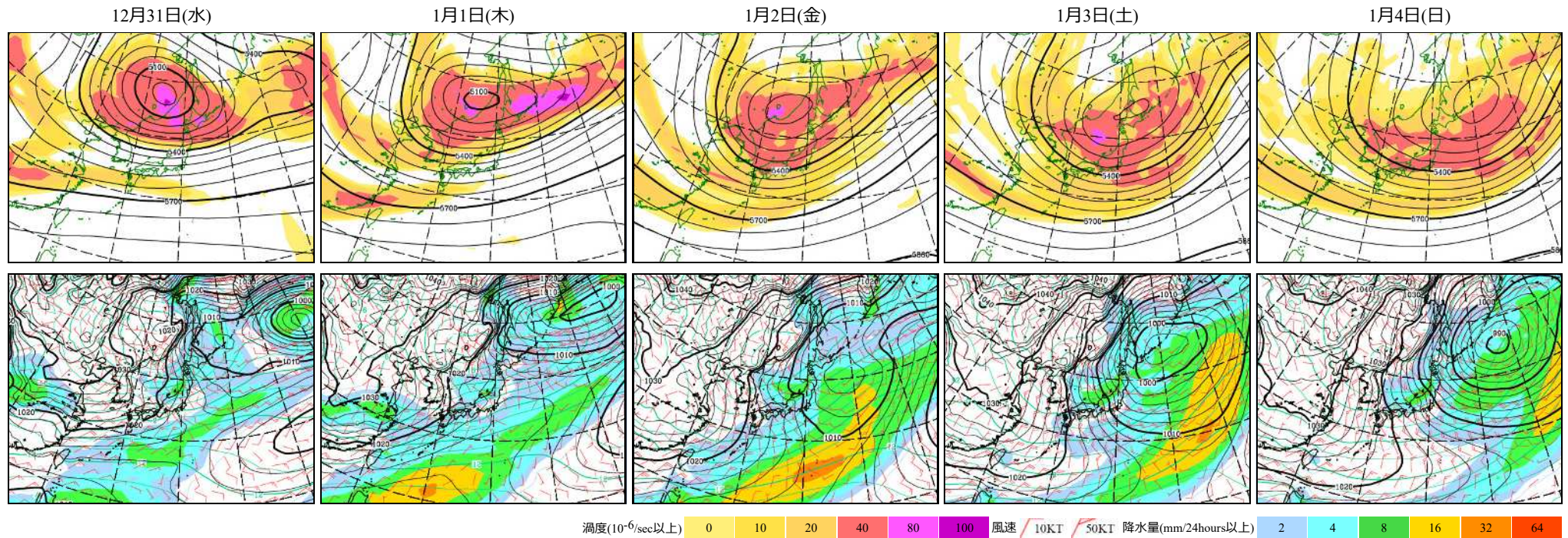
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



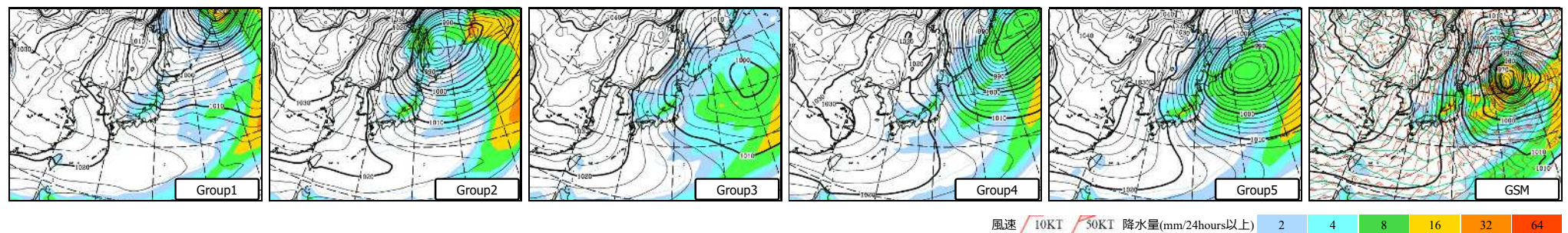
- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りや晴れる日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月4日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、寒冷渦の予想の初期値変わりが大きく、1月3日から4日頃にかけて、北海道から千島近海付近に進む予想となった。地上は、2日から4日頃にかけて三陸沖から千島近海に進む低気圧が明瞭となり、日本付近は冬型の気圧配置が強まる予想となった。昨日資料より下層寒気の流入が強くなり、2日から4日頃は東～西日本太平洋側までT850hPa-6°C線が南下する予想。
- 各モデル寒冷渦の予想の初期値変わりが非常に大きく、予想は安定していない。各モデル寒冷渦の東進が昨日資料より早まる傾向だが、期間後半の寒冷渦やそれに対応する低気圧の予想、冬型の気圧配置の強まりの程度等についてはモデル間のバラつきが大きい。日本モデルは海外モデルと比較して、寒冷渦の東進が遅い傾向が見られる。ENSメンバー間でも、寒冷渦の予想のバラつきが大きく、期間後半はスプレッドの値も大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。